

新型コロナウイルス影響下でのボランティア活動について

ボランティア希望者に心がけていただきたいこと

2020年7月〇日 東京ボランティア・市民活動センター

新型コロナウイルス感染拡大は、ボランティア活動する人とまわりの人、活動する先などにも影響を及ぼすおそれがあります。そのため、ボランティアグループやボランティアを募集する施設・団体などでも、一時的に活動を見合せたり縮小していて、参加者募集が普段より少なくなっています。

このような状況の中でもボランティアを楽しく、より豊かな活動とするため、活動する人自身が安心して安全に参加できるように備えるために、普段に気をつける点に加え下記のことについて心がけましょう。

1) 活動先に出かけなくてもつながりができる活動も検討しましょう

活動中の感染リスクが少ないオンラインや在宅などの遠隔でできるボランティア活動に参加する方法も検討してみましょう。ボランティア・市民活動センターや活動先の施設・団体と、どのようなことができるのか相談してみましょう。

例) ○オンラインでの交流、募金活動、通訳・翻訳、学習支援、講座・教室など

○在宅でプレゼントを作って寄贈、手紙や電話での交流など

2) 活動先の安全に関する事項を確認しましょう

活動先に出かけたり、対面でのボランティア活動への参加を考える場合、ホームページや募集案内等で現在も活動することができるかどうかや活動先の感染予防策も調べ、予防策をとることが難しそうであったり示されていないようなボランティア活動やイベントは活動先やボランティア・市民活動センターなどに問合せたり相談して、安全に関する事項を確認した上で参加するかどうかを決めましょう。また、ボランティアや外部の人による活動先の感染を減らすために、活動先が感染対策のための依頼をすることがありますので、内容を確認してから参加しましょう。

3) 活動する場合は、感染予防を万全にしましょう

活動先にいる方や自分を感染から守るために、マスクの着用、手洗い、消毒、換気、ソーシャル・ディスタンスをとるなどの予防に努めましょう。また、活動中の事故に備えるために多くの人が加入しているボランティア保険が、活動中の感染であれば新型コロナウイルス感染にも対応するようになりました(→※)。活動する前には必ず加入しましょう。なお、会社の研修・業務、学校の授業による参加の場合はボランティア保険の対象となりませんので、新型コロナウイルス感染をカバーする保険に加入して備えましょう。

4) 少しでも体調が悪い場合は参加を控えましょう

活動先には感染リスクが高かったり、感染すると重症化する人たちがいる場合があります。体調に少しでも違和感や不安を感じたり、自分の周りに感染者がいる場合などで自分の感染リスクに心配のある場合は、活動先に連絡して、ボランティア活動に行くことを控えましょう。感染していても無症状であったり、発熱の2日前から感染力をもっていることがあります。また、抗体検査等で陰性であったり、抗体があることがわかっていても、陽性になるリスクはありますので、活動する前から感染予防に心がけ、活動を休むことになった場合の期間や目安については、活動先のルールを確認しましょう。

5) 感染が発生した場合に連絡が取れるよう準備しましょう

ボランティア活動先で感染者が発生した場合に連絡を受けることができるように、あらかじめ活動先に連絡先を伝えておきましょう。もし活動後に自分や身近な人の感染が分かった場合は、活動先に必ず連絡を入れましょう。

「after(アフター)コロナ」を待ち望むだけではなく「with(ウィズ)コロナ」で取り組んでいかなければならない状況が今後も続いていくと考えられます。東京ボランティア・市民活動センターでも、そのような状況が続くなかで、今何をしなければならないのか、工夫と創意の連続をしながら、希望をもってあきらめずに、できること・必要なことをみなさんと一緒に考えていければと思います。

※：ボランティア保険の対象となるボランティア活動の範囲や、保険金の請求時の手続き等の詳細については、東京福祉企画のボランティア保険のウェブサイト (<http://www.tokyo-fk.com/>) やボランティア保険のパンフレット等をご覧ください。

【新型コロナ受診相談窓口（帰国者・接触者電話相談センター）】

平日：日中（概ね9時～17時） 最寄りの保健所の相談センター

平日：17時～翌9時・土日祝日：終日 東京都内全域 03-5320-4592

(<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/kansen/coronasodan.html>)